



第77巻 第2号
 年4回発行
 社会福祉法人 慈生会
 〒165-0022
 東京都中野区江古田3-15-2
 TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
 振替口座 ベタニアの家
 00170-6-15317

残せたもの・ 残せなかったもの

櫻井 正昭

主のご復活、おめでとうございませう。ところで「復活の主日」は、「春分の日」直後の満月の、次の日曜日とされていますので、毎年日付が移動しますが、新年度初日の四月一日と重なるのは珍しいことです。

昨年十二月、清瀬地区の乳児院ナザレットの家と児童養護施設ベトレヘム学園の合築工事が完了し、引越しも無事済んで、新しい建物で、クリスマスと新年を迎えました。それから数ヶ月が経ち、子どもたちにも生活に落ち着きが出てきました。

昨年はこの一大事業に明け暮れた一年でしたが、新しい建物の建設と古い建物の解体に伴って、残したかったもので残せたもの、残せなかったものについて、いくつかのエピソードをご紹介します。

新しい施設は、ベタニア修道女会ベトレヘム第三修道院の北側の空地

に建てられました。そこには大きなクスノキと数本のサクラがありました。特に敷地の東南端のクスノキは堂々としていたので、設計の段階から残すことを前提に建物の配置を調整しました。またサクラについてもできるだけ伐採せず、特に修道院側のサクラは、道路に面している中央の一本を残すことにしました。毎年春には、修道院の前庭のシダレザクラと対をなして、美しい花を咲かせることと思います。

解体された旧ベトレヘム学園の前庭にはケヤキの高木がありました。相当な樹齢で遠くからも認識できるほどのものでした。ケヤキは清瀬市にとって、「市の木」にもなっているほどのシンボリック存在です。

一方で、以前から落ち葉が近隣の住宅に散乱して、苦情の原因にもなっていました。この大木を残すかどうかは課題になりましたが、専門家に診断してもらったところ、内部に空洞があり、単独で残しても、近年のような激甚な台風に襲われたら、倒

木や枝折れの危険があることがわかり、また引き続き落ち葉の管理も大変なので、残念ながら伐採せざるを得ないことになりました。

また旧ベトレヘム学園の屋根の上には、十字架の形が彫り込まれた吹き抜けが見え、学園の象徴的なマークとなっていました。この形を新しい建物のエレベータータワーの塔屋に再現しました。また玄関の脇にあった「被昇天の MARIA」像は、新しい建物の正面玄関の近くに移設しました。

最も頭を悩ましたのは、旧乳児院の玄関わきのタイル壁画をどうするかということでした。この壁画は、森の中に憩う聖母子を描いた故松谷謙司氏の作品で、このような様式としては、最初でかつ唯一のものであるとのことでした。

松谷氏は結核の長期療養から退院直後、フロジャク神父が徳田教会を建設された時、彫刻については素人だったにもかかわらず神父に申し出て、献堂式に間に合わせるように、聖堂正面に設置するほぼ等身大の木彫の十字架のキリスト像を手がけ、そのことがきっかけになって、本格的に彫刻家の道に進むことになったという経緯があります。

氏はこの「瑠璃草」についても、フロジャク神父のペンネーム「不老若」の文章の口述筆記を行うなど、

事業の黎明期を支えてくださいました。タイル壁画を残すことは松谷氏を知る関係者の強い希望でしたが、これを残すためには、その部分を丁寧にくり抜いて、新しい建物の敷地のどこかに移設しなければなりません。切り取りがうまく行くとはいえませんが、相当の重量なので、運搬も大変です。

私はかつて徳島県鳴門市にある大塚国際美術館を訪ねたことがありますが、館内のステイナ礼拝堂のミケランジェロの天井画とか、レオナルド・ダ・ヴィンチの壁画「最後の晩餐」は、全て原寸大の陶板で再現されたものでした。業者に確認したところ、この手法ならタイル壁画の再現は可能でしたが、移設以上に経費が掛かることが判明しました。

検討の結果、やはりそのまま切り取って清瀬に移設することになり、その場所は、新しい建物の地域交流ホールの玄関ポーチの外側ということになりました。

解体、運搬、据え付けに携わる業者の協働作業で、破損することもなく、無事に工事が完了しました。何事も目的を達成するためには、各専門家が分野を超えて互いに協力しあうことが大切だということを、改めて感じています。

(慈生会常務理事)

ベタニアミッションセンター

シスター 國定 光恵

創立者ヨゼフ・フロジャク神父様が、ドマンジェル神父様の代わりに、偶然一人の青年を病院に見舞ったことから、当時死の病と言われた結核で苦しむ人々と出会い、その惨状を見過ごすことが出来ず、やむにやまれぬ思いで「ベタニアの家」を始めるをえなくなったことが、創立者の日記に記されています。



1930年（昭和5年）に建てられた最初のベタニアの家

物資も資金も乏しい中、カトリックの愛を身をもって生きるフロジャク神父を助けるため、生涯を捧げて集まった女性たちのグループが、現在のベタニア修道女会の前身です。「ベタニアの家」は戦後、法の整備が進み、時代とともにさまざまに形を変え、現在は社会福祉法人慈生

会および学校法人東星学園が、ベタニア修道女会を母体としてカトリックの精神と霊性を継承しています。



80周年祝賀会

ベタニア修道女会は、一九三七年にローマより認可を受けて八十周年を迎え、昨年お祝いをいたしました。この大きな節目を迎えられたことは私たちにとって大きな喜びでした。修道会に託された神さまからの特別な使命に忠実に生きる決意を皆で新たにしたところです。

私たちはこれまで年毎に、時代のしるしを読み取りながら、修道者が果たすべきミッションを模索し続けてまいりましたが、二〇一二年の総会において、修道会のカリスマに沿った新たな活動に取り組むことが決定されました。

二〇一三年に準備室設置、翌二〇一四年からは「ベタニアミッション

センター」として、試行錯誤しながらの新たな活動が始まり、今年丸四年を迎えました。まだまだ手探りの段階ですが、現在行なっている活動の一部を写真で紹介いたします。



みことば書道



講演会



聖書を読む会



お茶のひととき



ベタニア午後の集い

テゼの歌と祈りの集い



神のみ心によって生まれ、それを生きるようにと願われた創立者の思いをどのように具現化し、発信していったらよいかが、これからの私たちの大きな課題です。

時代がどのように変わろうとも常に「ベタニア」らしさとは何かを問い続けながら、時代と共に変動する社会のニードにこたえつつ、創立者が大切にされた地域の方々とともに老いも若きも皆が安心して集い、神の愛を感じることができ、そんな「憩いの家」を建て続けていくことが出来れば、と思っています。

これからも皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

（ベタニア修道女会）

「希望を胸に」

小野崎 孝史

障害者福祉制度は、二〇〇三年四月の「支援費制度」の導入に始まり、二〇〇四年四月の「障害者自立支援法」の施行と、障害者福祉を取り巻く環境は目まぐるしく変化する中で、地域生活への移行といった動きが活発になり始めました。

マ・メゾン光星においても地域でのありようをどのように構築し、地域福祉に根ざした事業所を目指していくのかといった疑問符に対し、私たちは、先駆的な取り組みをしている事業所の視察や研修への参加、そして施設での勉強会、検討委員会が重ねられてきました。

今、子どもたちが置かれている社会はとても忙しく、特にご両親が共働きの家庭では、放課後の時間帯に子どもの帰宅を家族が迎える事は難



しいのが現状です。しかし、現在那須町には、障害を持たれたお子さんをお預かりする放課後等デイサービス事業所が一ヶ所しかありません。そのような中、那須町に事業所を開設してもらいたいといった、たくさんのお声を頂き、社会福祉法人慈生会は、二〇一八年四月、新たに障害児通所支援事業、放課後等デイサービス「エスポワール」を那須町に開設致しました。

名称の「エスポワール」とはフランス語で希望を意味します。希望という言葉には子どもたち1人ひとりの未来に輝きと希望を持ち、その成長を支えていく、そんな願いが込められていきます。子どもたちの成長を通じて、そして保護者の皆さんと共に歩む「エスポワール」でありたいと願っております。

フロッジャク神父様がこの那須の地に児童施設を開設後、六二年目になります。慈生会の新規事業が地域貢献の第一歩として歩みはじめ、今後も様々な形で地域の声にお応えしていきますよう、神様のご導きがありますよう、お祈りいたします。

(マ・メゾン光星 事務長)

園庭の改善について

山崎 志帆

徳田保育園は新しい園舎になって四年。園庭の遊具側の芝生がほとんど見えなくなり、土が顔を出していました。子ども達が毎日元気に遊んでいる証拠です。芝生張り替えの工事が昨年九月から始まり、しばらく園庭の使用ができなくなりました。

徳田保育園には0歳児から就学前までのお子さんが在籍しています。

園庭遊びでは、0歳児からハイハイができる様になると、芝生の上を散策します。その様子は様々で、芝生の感触を楽しむ子、保育士の抱っこから離れたがらない子、芝生の感触



に驚き泣きだしてしまいう子などがあります。歩く事ができるようになると、裸足で遊び、全身で感触を楽しむ姿が見られていました。

子ども達の成長発達の為には、豊かな、多様な自然との触れ合いが必要です。

子どもは、太陽の子でなければならぬ。

子どもは、風の子でなければならぬ。

子どもは、水の子でなければならぬ。

子どもは大地の子でなければならぬ。

子どもは、生きものたちと遊ばなければならぬ。

この地球上に生まれ、太陽、風、水、大地の子としてそこに育つ草や木や生き物達と直接触れる事なしには人としての感覚も、そして知性も感性も育たないのです。

十一月には、芝生工事が終了し、子ども達は今か今かと待ち望んでいた園庭遊びも開始されました。毎日園庭で生き生きと元気に遊ぶ子ども達の姿を見る事ができ、神様に見守られている事を実感しています。神様ありがとうございます。

(徳田保育園 園長補佐)

ベタニアの家

四月行事予定

1 日 ☆復活の主日

2 日 慈生会 新任職員

オリエンテーション

7 日 ベタニアミッションセンター主催

「聖書に学ぶ現代人への
メッセージ」星野正道神父

8 日 ☆神のいづくしみの主日

9 日 東星学園中高部 入学式

11 日 東星学園小学校 入学式

12 日 東星幼稚園 入園式

22 日 ☆世界召命祈願日

28 日 《昭和の日》

29 日 東星学園 ヨセフ祭 舞台発表

五月行事予定

1 日 ☆労働者聖ヨセフの祝日

東星学園創立記念ミサ

3 日 《憲法記念日》

4 日 《みどりの日》

5 日 《こどもの日》

13 日 ☆主の昇天

17 日 ベタニアミッションセンター主催

展示会



19 日 東星学園小学校運動会

19 日 ベタニアミッションセンター主催

「いのちのめぐみ」

平松良夫牧師

20 日 ☆聖霊降臨の主日

27 日 ☆三位一体の主日

六月行事予定

1 日～2 日 慈生会職員研修

「キリストの心に

触れるパートI」

3 日 ☆キリストの聖体

6 日 慈生会理事会

8 日 ☆イエスの心

ベタニア修道女会設立認可記念日

16 日 東星学園 中高部

スポーツ大会

21 日 慈生会評議員会

23 日 ベタニアミッションセンター主催

「罪とゆるし」荒川博行神父

27 日 ベタニアの家創立記念ミサ

永年勤続表彰

『移転したマリア像』

原田 直人

ナザレットの家とベトレヘム学園の新築移転に伴い旧ベトレヘム学園のホール前に設置されていたマリア像が移転されました。『被昇天のマリア像』ということで、写真を見てお分かりになるとと思いますが、マリア像としては珍しい宙に浮いた作品です。設置当初から毎年七五三の記念写真をご像の前でとるのが習わしです。

タイル壁画の『森の聖母子』とともにどちらの慈生会の事業が始まった当時からフロジャク神父様の片腕として事業を支えてくださった彫刻家でもあり恩人でもある松谷謙司先生の作品です。

それぞれのマリア様に護られて子どもたちが心健やかに成長しますように。



ベタニアホームは十二月～三月まで感染症予防強化期間として職員がマスク着用、手洗い、うがい等の感染予防対策を細目に行っています。二月までは感染者ゼロでしたが、三月になりとうとうインフルエンザが発症してしまいました。みんな頑張ったのに・・・。

新年度を迎え、気持ちを切り替え、頑張りたいと思っています。

(中村 英男)

編集後記



今年の復活祭は新年度のスタートに合わせたかのように四月一日ですね。なんだかワクワクします。那須地区では新しい事業も始まり慈生会もフロジャク神父様が蒔いた種を着実に育て実らせている気がします。

それぞれの事業所では新しいメンバーも加わり不安と期待が程よくブレンドされた緊張感に包まれているのではないのでしょうか。今日から始まる新しい年度が主の復活とともにあり実りある一年となりますように。

(原田 直人)

ナザレット乳児院が引っ越し、中野地区は少し寂しい感じですが、徳田保育園の子どもたちの園庭で遊ぶ声や散歩で川沿い修道院横を通って行く元気な声を聞くとホッと嬉しくなります。清瀬は幼い子の声も加わり賑やかになったことでしょう。

「ベタニアの家」は乳児から高齢者まで全世代の方々と「共に暮らす家」。今までの関わりと、新たな出会いに祝福がありますように。

(Sr菊池 啓子)